

2019年度 クラブ経営情報開示資料 (先行発表)

2020年5月27日

公益社団法人日本プロサッカーリーグ
クラブ経営本部
クラブライセンス事務局

(1) 経営情報開示の概要

- ① 2019シーズンの J 1、J 2、J 3 全55クラブのうち、下記10クラブを除いた45クラブにつき、5月に先行して経営情報（2019年度決算情報）を開示する
新型コロナウイルスの影響にて決算の確定が延期となったクラブ(6クラブ)
水戸、栃木、東京 V、横浜 F C、山口、相模原
3月決算のクラブ(4クラブ)
湘南、磐田、柏、Y S 横浜
- ② 7月には、全55クラブの経営情報を開示するとともに、J リーグ全体の収入規模や各指標の比較等を加えた具体的な数値データの発表を行う予定である（「2段階発表」とする）

(2) 「2段階発表」を実施する背景

- ① J リーグおよび J クラブをサポート頂いている方々への迅速な情報提供
 - ・ J リーグおよび J クラブの公共性に鑑みると、適時適切な情報を提供することは J リーグの信頼性を向上していくうえで不可欠である
 - ・ クラブ経営への関心が高まることで、クラブに関わる方々がクラブとともに成長に必要な策を検討、実行していく機会も増加する
- ② クラブライセンス制度の透明性・公平性の担保
 - ・ クラブライセンス制度の浸透により、財務基準に対する世間の関心が高まっている
 - ・ 迅速な開示を行うことで、クラブライセンス審査の透明性と公平性を担保する

1 - 2. 主なトピックス



※ 2019シーズンの全55クラブのうち、下記10クラブを除いた45クラブについて
(湘南、磐田、水戸、栃木、柏、東京V、横浜F C、山口、Y S横浜、相模原)

- (1) **営業収益**は、45クラブ合計で**1,154億円**(前年比**+72億円**)
- (2) **営業費用**は、45クラブ合計で**1,164億円**(前年比**+108億円**)
うち、チーム人件費551億円(前年比+55億円)
- (3) クラブ別トピックス
 - ・**ヴィッセル神戸**は**Jリーグ史上最高営業収益 114.4億円**を計上
※これまでの最高額は、同じくヴィッセル神戸の2018年度96.6億円
 - ・**サガン鳥栖**は**赤字(当期純損失) 20.1億円**を計上
 - ・**F C琉球**は**4期連続赤字** (※ただし、財務基準には抵触しない)

1 - 3. 赤字・債務超過クラブ

※ 2019シーズンの全55クラブのうち、下記10クラブを除いた45クラブについて
(湘南、磐田、水戸、栃木、柏、東京V、横浜F C、山口、Y S横浜、相模原)

- ・ F C琉球が4期連続赤字
- ・ 赤字クラブは19クラブ、3期以上連続赤字クラブは1クラブとなった

【2019年度のJ 1・J 2・J 3クラブの財務状況】

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	該当クラブ (2019年度)
クラブ数	51	51	52	53	54	54	45/55	
単年度赤字	17	13	7	13	14	18	19	札幌※、仙台※、名古屋、 C大阪、鳥栖※、甲府、 岐阜、京都、愛媛、福岡、 岩手、秋田、福島※、 長野※、富山※、藤枝、 鳥取、讃岐、琉球※
3期以上 連続赤字	5	1	0	0	0	1	1	琉球※ (財務基準には抵触しない)
債務超過	12	2	0	0	0	0	0	※札幌、仙台、鳥栖、 福島、長野、富山は 2期連続赤字 ※琉球は4期連続赤字

【注】2013年度のクラブ数は、新入会クラブの所属リーグにおける財務数値を基準としている

Appendix

2-1. 営業収益（売上高）の推移

【注】 2019シーズン全55クラブのうち、下記11クラブを除いた44クラブでの比較

水戸、栃木、東京V、横浜F C、山口、相模原(コロナ禍による決算確定延期クラブ)

湘南、磐田、柏、Y S横浜(3月決算クラブ)、八戸(2019シーズン新加入クラブ)

2019-2018年度比較（44クラブ） 増収28クラブ、減収15クラブ J 1クラブがリーグ全体の成長を強くけん引している

【2019年 J 1 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 神戸	5,237	9,666	11,440	+1,774
2 浦和	7,971	7,549	8,218	+669
3 川崎F	5,123	6,074	6,969	+895
4 名古屋	4,594	5,491	6,912	+1,421
5 鹿島	5,228	7,330	6,768	▲562
6 横浜F M	4,765	5,138	5,884	+746
7 F C東京	4,588	4,844	5,635	+791
8 G大阪	4,966	5,159	5,513	+354
9 清水	4,010	3,983	4,291	+308
10 C大阪	3,976	3,871	3,786	▲85
11 広島	3,424	3,367	3,737	+370
12 札幌	2,676	2,988	3,599	+611
13 仙台	2,709	2,684	2,711	+27
14 松本	1,991	2,239	2,711	+472
15 鳥栖	3,350	4,257	2,561	▲1,696
16 大分	1,023	1,128	1,866	+738
合計	65,631	75,768	82,601	+6,833

17 湘南	1,566	2,978	3月決算	-
18 磐田	3,828	3,745	3月決算	-

44クラブ				
総合計	96,118	108,216	115,177	+6,961

【2019年 J 2 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 大宮	3,685	3,972	3,454	▲518
2 千葉	2,593	2,893	2,838	▲55
3 長崎	1,120	2,323	2,564	+241
4 新潟	2,762	2,493	2,247	▲246
5 京都	1,857	1,848	2,090	+242
6 山形	1,576	1,698	1,845	+147
7 徳島	1,639	1,688	1,763	+75
8 福岡	1,979	1,831	1,577	▲254
9 岡山	1,433	1,502	1,567	+65
10 甲府	1,727	1,511	1,455	▲56
11 岐阜	951	1,090	1,079	▲11
12 町田	709	755	1,032	+277
13 鹿児島	496	493	790	+297
14 愛媛	769	789	777	▲12
15 金沢	656	736	760	+24
16 琉球	241	339	632	+293
合計	24,193	25,961	26,470	+509

17 水戸	578	621	1月決算	-
18 栃木	658	962	1月決算	-
19 柏	3,454	4,150	3月決算	-
20 東京V	1,622	1,852	1月決算	-
21 横浜F C	1,244	1,522	1月決算	-
22 山口	1,019	1,126	1月決算	-

【2019年 J 3 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 熊本	840	933	850	▲83
2 北九州	864	794	804	+10
3 長野	702	675	675	0
4 讃岐	696	704	561	▲143
5 富山	539	482	522	+40
6 群馬	624	462	465	+3
7 秋田	360	435	461	+26
8 鳥取	458	475	455	▲20
9 沼津	361	386	401	+15
10 福島	359	367	325	▲42
11 藤枝	210	291	324	+33
12 八戸	-	-	302	-
13 岩手	281	483	263	▲220
合計	6,294	6,487	6,106	▲381

14 Y S横浜	193	205	3月決算	-
15 相模原	282	331	1月決算	-

※ J3合計および総合計に八戸は含まれていない。

※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。

【凡例】 : J1在籍 : J2在籍 : J3在籍

2-2. スポンサー収入の推移

【注】 2019シーズン全55クラブのうち、下記11クラブを除いた44クラブでの比較

水戸、栃木、東京V、横浜F C、山口、相模原(コロナ禍による決算確定延期クラブ)

湘南、磐田、柏、Y S横浜(3月決算クラブ)、八戸(2019シーズン新加入クラブ)

2019-2018年度比較 (44クラブ) 増収31クラブ、減収12クラブ

【2019年J 1在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 神戸	3,352	6,208	7,405	+1,197
2 名古屋	2,856	3,345	4,077	+732
3 浦和	3,193	3,226	3,841	+615
4 F C東京	1,717	1,988	2,419	+431
5 鹿島	1,917	2,156	2,303	+147
6 横浜F M	2,111	2,033	2,263	+230
7 川崎F	1,854	1,478	2,143	+665
8 清水	1,797	1,757	1,937	+180
9 G大阪	1,800	1,845	1,863	+18
10 C大阪	1,600	1,786	1,707	▲79
11 広島	1,546	1,530	1,582	+52
12 札幌	1,070	1,306	1,440	+134
13 仙台	1,183	1,137	1,165	+28
14 松本	953	991	1,145	+154
15 鳥栖	1,574	2,296	810	▲1,486
16 大分	443	486	726	+240
合計	28,966	33,568	36,826	+3,258

17 湘南	795	1,224	3月決算	-
18 磐田	1,812	1,869	3月決算	-

【2019年J 2在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 大宮	2,296	2,611	2,464	▲147
2 千葉	1,704	1,994	1,954	▲40
3 長崎	539	1,183	1,557	+374
4 京都	1,129	1,243	1,356	+113
5 徳島	1,103	1,098	1,147	+49
6 新潟	1,085	1,127	949	▲178
7 甲府	774	760	800	+40
8 岡山	703	763	798	+35
9 福岡	621	990	693	▲297
10 町田	343	370	666	+296
11 岐阜	474	557	589	+32
12 山形	429	469	573	+104
13 鹿児島	261	330	401	+71
14 愛媛	302	324	324	0
15 金沢	294	328	320	▲8
16 琉球	65	156	181	+25
合計	12,122	14,303	14,772	+469

17 水戸	195	205	1月決算	-
18 栃木	408	525	1月決算	-
19 柏	1,954	1,968	3月決算	-
20 東京V	779	847	1月決算	-
21 横浜F C	698	924	1月決算	-
22 山口	439	506	1月決算	-

【2019年J 3在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 長野	407	417	419	+2
2 北九州	384	394	384	▲10
3 熊本	351	431	366	▲65
4 富山	372	321	341	+20
5 群馬	267	228	285	+57
6 秋田	198	255	266	+11
7 藤枝	144	228	254	+26
8 讃岐	292	268	241	▲27
9 鳥取	233	245	221	▲24
10 沼津	166	186	220	+34
11 福島	237	246	214	▲32
12 八戸	-	-	152	-
13 岩手	116	118	144	+26
合計	3,167	3,337	3,355	+18

14 Y S横浜	38	44	3月決算	-
15 相模原	181	212	1月決算	-

44クラブ

総合計	44,255	51,208	54,953	+3,745
-----	--------	--------	--------	--------

※ J3合計および総合計に八戸は含まれていない。

※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。

【凡例】 : J1在籍 : J2在籍 : J3在籍

2-3. 入場料収入の推移

【注】 2019シーズン全55クラブのうち、下記11クラブを除いた44クラブでの比較

水戸、栃木、東京V、横浜F C、山口、相模原(コロナ禍による決算確定延期クラブ)

湘南、磐田、柏、Y S横浜(3月決算クラブ)、八戸(2019シーズン新加入クラブ)

2019-2018年度比較 (44クラブ) 増収30クラブ、減収13クラブ

【2019年 J 1 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 浦和	2,337	1,923	2,300	+377
2 横浜F M	1,018	1,127	1,286	+159
3 神戸	514	840	1,260	+420
4 G大阪	1,266	1,152	1,247	+95
5 名古屋	824	936	1,221	+285
6 F C東京	1,026	947	1,104	+157
7 川崎F	1,038	975	1,042	+67
8 鹿島	894	978	996	+18
9 札幌	622	636	779	+143
10 鳥栖	631	678	760	+82
11 清水	625	582	702	+120
12 松本	494	503	695	+192
13 C大阪	839	618	677	+59
14 仙台	619	608	615	+7
15 広島	496	500	547	+47
16 大分	250	254	472	+218
合計	13,493	13,257	15,703	+2,446

17 湘南	240	480	3月決算	-
18 磐田	615	638	3月決算	-

44クラブ

総合計	17,167	16,879	19,321	+2,442
-----	--------	--------	--------	--------

【2019年 J 2 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 新潟	629	507	500	▲7
2 大宮	397	339	332	▲7
3 千葉	337	332	326	▲6
4 甲府	353	297	286	▲11
5 長崎	115	407	257	▲150
6 山形	172	178	241	+63
7 京都	205	173	198	+25
8 岡山	190	176	186	+10
9 徳島	136	135	172	+37
10 福岡	190	174	137	▲37
11 岐阜	111	131	116	▲15
12 町田	94	108	115	+7
13 鹿児島	21	27	104	+77
14 金沢	60	69	72	+3
15 愛媛	74	56	61	+5
16 琉球	5	10	47	+37
合計	3,089	3,119	3,150	+31

17 水戸	83	84	1月決算	-
18 栃木	59	115	1月決算	-
19 柏	554	449	3月決算	-
20 東京V	186	178	1月決算	-
21 横浜F C	171	167	1月決算	-
22 山口	204	212	1月決算	-

【2019年 J 3 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 北九州	124	107	124	+17
2 熊本	111	106	83	▲23
3 長野	59	46	45	▲1
4 讃岐	87	74	45	▲29
5 群馬	67	43	44	+1
6 鳥取	33	34	32	▲2
7 富山	34	28	30	+2
8 秋田	16	20	20	0
9 福島	12	12	14	+2
10 沼津	22	16	12	▲4
11 藤枝	7	8	11	+3
12 八戸	-	-	10	-
13 岩手	13	9	8	▲1
合計	585	503	468	▲35

14 Y S横浜	14	14	3月決算	-
15 相模原	26	35	1月決算	-

※ J3合計および総合計に八戸は含まれていない。

※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。

【凡例】 : J1在籍 : J2在籍 : J3在籍

2-4. チーム人件費の推移

【注】 2019シーズン全55クラブのうち、下記11クラブを除いた44クラブでの比較

水戸、栃木、東京V、横浜F C、山口、相模原(コロナ禍による決算確定延期クラブ)
湘南、磐田、柏、Y S横浜(3月決算クラブ)、八戸(2019シーズン新加入クラブ)

2019-2018年度比較 (44クラブ) 増加26クラブ、減少18クラブ

【2019年 J 1 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 神戸	3,104	4,477	6,923	+2,446
2 名古屋	1,843	2,823	3,973	+1,150
3 浦和	2,644	3,108	3,228	+120
4 川崎F	2,339	2,614	2,958	+344
5 鹿島	2,382	3,157	2,936	▲221
6 FC東京	2,010	2,133	2,736	+603
7 横浜FM	2,118	2,301	2,684	+383
8 鳥栖	1,899	2,670	2,528	▲142
9 G大阪	2,212	2,193	2,434	+241
10 C大阪	2,334	2,334	2,406	+72
11 広島	1,602	1,864	1,931	+67
12 清水	1,680	1,811	1,729	▲82
13 札幌	1,206	1,502	1,698	+196
14 松本	956	1,145	1,430	+285
15 仙台	1,165	1,232	1,296	+64
16 大分	367	482	860	+378
合計	29,861	35,846	41,750	+5,904

【2019年 J 2 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 大宮	1,792	1,915	1,547	▲368
2 千葉	1,177	1,272	1,153	▲119
3 長崎	494	814	1,029	+215
4 京都	852	692	895	+203
5 徳島	814	952	892	▲60
6 福岡	1,000	909	784	▲125
7 新潟	1,227	1,108	722	▲386
8 甲府	883	747	707	▲40
9 岡山	638	638	634	▲4
10 山形	438	524	549	+25
11 岐阜	316	365	461	+96
12 愛媛	316	353	406	+53
13 町田	228	278	402	+124
14 金沢	309	331	311	▲20
15 鹿児島	138	179	296	+117
16 琉球	81	99	252	+153
合計	10,703	11,176	11,040	▲136

【2019年 J 3 在籍クラブ】 (百万円)				
	2017年度	2018年度	2019年度	前年比
1 熊本	354	400	310	▲90
2 長野	281	293	294	+1
3 讃岐	345	301	263	▲38
4 北九州	308	287	250	▲37
5 富山	200	195	200	+5
6 群馬	292	223	184	▲39
7 藤枝	59	119	164	+45
8 秋田	114	148	161	+13
9 福島	119	125	124	▲1
10 沼津	100	118	116	▲2
11 岩手	87	268	114	▲154
12 鳥取	112	106	114	+8
13 八戸	-	-	81	-
合計	2,371	2,583	2,294	▲289

17 湘南	774	1,384	3月決算	-
18 磐田	1,553	1,721	3月決算	-

44クラブ				
総合計	42,935	49,605	55,084	+5,479

17 水戸	261	275	1月決算	-
18 栃木	229	353	1月決算	-
19 柏	2,308	2,806	3月決算	-
20 東京V	572	733	1月決算	-
21 横浜F C	533	734	1月決算	-
22 山口	399	468	1月決算	-

14 Y S横浜	30	44	3月決算	-
15 相模原	92	109	1月決算	-

※ J3合計および総合計に八戸は含まれていない。

※ 百万円未満の増加・減少は、増減クラブ数にカウントしていない。

【凡例】 : J1在籍 : J2在籍 : J3在籍

3－1．3期連続赤字禁止ルールの改定について



- (1) クラブライセンス制度施行前には経営的に不安定なクラブが数多く存在したことから、クラブの経営安定化を主目的として財務基準に債務超過禁止および3期連続赤字禁止というルールが制定された。
- (2) クラブライセンスの施行（2012年）後、赤字クラブ数および債務超過クラブ数は大きく減少し、クラブの経営安定化は進んだ。
- (3) 一方で、現在のクラブの財務状態から鑑みれば、今の財務基準は一部のクラブに過度に保守的な経営判断を行わせる可能性があるとの指摘があがった。
- (4) そのため、経営検討部会クラブライセンス財務基準分科会を発足し、財務基準改定の必要性について議論を行い、理事会の承認を経て、2018年から新ルールが施行された。

Jリーグクラブライセンス（J1・J2ライセンス）改定の趣旨（J3クラブライセンスは変更なし）

3期以上連続で赤字が発生したとしても、**連続赤字の最終年度における期末純資産残高が当該年度の赤字額の絶対値を上回っている場合は不交付としない**こととする。

改定のメリット

- ①内部留保を活用した大規模投資がしやすくなる
- ②純資産に余裕がある状況下では、予測出来ない費用を意識した緊縮予算を組む必要が無くなる
- ③少額赤字を気にせず、収支均衡を目指しやすくなる

3 - 2. 3期連続赤字禁止ルールの改定について

【Jリーグクラブライセンス交付規則運用細則】

改訂前（2017年申請）	現行
<p>規則番号： F.01 等級： A 年次財務諸表（監査済み） （抜粋） 3. 判定 判定は、原則としてライセンス申請者の個別財務諸表で行うものとする。ただし、第3項第2号に該当する場合には、この限りではない。 （中略） (2)提出された財務諸表に基づいて審査を行い、以下のいずれかに該当する場合は基準F.01を満たさないものとする。 ①3期連続で当期純損失を計上した場合 ②ライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度末日現在、純資産の金額がマイナスである（債務超過である）場合 ③ Jリーグからの指摘に基づき、過年度の決算の修正が必要となった場合において、過年度の決算を修正した結果、前2号に示す事態となった場合 （後略）</p>	<p>規則番号： F.01 等級： A 年次財務諸表（監査済み） （抜粋） 3. 判定 判定は、原則としてライセンス申請者の個別財務諸表で行うものとする。ただし、第3項第2号に該当する場合には、この限りではない。 （中略） (2)提出された財務諸表に基づいて審査を行い、以下のいずれかに該当する場合は基準F.01を満たさないものとする。 ①3期以上連続で当期純損失を計上した場合 （ただし、ライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度末日現在の純資産残高がライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度の当期純損失の額の絶対値を上回っている場合は本項目に該当しないものとみなす） ②ライセンスを申請した日の属する事業年度の前年度末日現在、純資産の金額がマイナスである（債務超過である）場合 ③ Jリーグからの指摘に基づき、過年度の決算の修正が必要となった場合において、過年度の決算を修正した結果、前2号に示す事態となった場合 （後略）</p>

※上記は、2018年より既に運用が開始されております。

4. 「赤字」と「債務超過」の違い

1. 損益総括

(百万円)

	金額
営業収益	791
スポンサー収入	418
入場料収入	131
Jリーグ配分金	96
アカデミー関連収入	29
物販収入	45
その他収入	72
営業費用	907
チーム人件費	338
試合関連経費	92
トップチーム運営経費	143
アカデミー運営経費	30
女子チーム運営経費	0
物販関連費	31
販売費および一般管理費	273
営業利益	▲ 116
経常利益	▲ 115
税引前当期利益	▲ 115
法人税および住民税等	1
当期純利益（損失）	▲ 116

2. 貸借対照表

(百万円)

	金額
流動資産	119
固定資産	40
資産の部 合計	159
流動負債	211
固定負債	4
負債の部 合計	215
資本金	285
資本剰余金	85
利益剰余金	▲ 426
資本（純資産）の部 合計	▲ 56

債務超過を解消する = （純資産を0以上にする）方法

- (1) 資本金を増やす
→ 増資の実行（資本金を出す人を募る）
- (2) 利益剰余金を増やす（マイナスを消す）
→ 当期純利益を出す
 - 費用を削減して利益を出す
（チーム人件費、試合運営費、etc.）
 - 収入を増やして利益を出す
（広告料、入場料、etc.）

したがって左のクラブの場合、債務超過解消には、

- ① 5,600万円以上の増資
- ② 5,600万円以上の当期純利益
- ③ 増資と利益の合計が5,600万円以上のいずれかの手段を取らなければならない。

} 出資や増資等で得た資金はここにカウント
 →これまでの黒字（赤字）の累積
 →ここがマイナスなら「債務超過」

5. 新型コロナウイルスの影響による特例措置(財務基準)

対象基準		懸念事項	特例措置
財務基準	F.01「年次財務諸表(監査済み)」	試合延期の影響(平日開催の増加・自粛ムード等)や、スクール活動の休止、スポンサー営業の不振などで、3期連続赤字および債務超過に陥ってしまう。	<p>19年度決算および20年度決算において当期純損失を計上し若しくは純資産がマイナスとなった場合でも、それが、新型コロナウイルスによる影響であると認められる場合には、F.01に対する運用細則3.(2)①に定める「3期以上連続で当期純損失を計上した場合」においては、当該年度をカウントせず、同②「純資産の金額がマイナスである(債務超過である)場合」に該当する場合でも、F.01を満たさないとは判断しない。</p> <p>※19年度決算および20年度決算において特例措置が認められた場合、当該年度の当期純損失および債務超過についてカウントしないものとして取り扱う。</p>
	F.06「予算および予算実績、財務状況の見通し」		<p>2020年度決算見込みにおいて、F.06に対する運用細則3.⑤に定める「基準F.01に対する運用細則の内容を充足する内容でないと判断される場合」に該当する場合でも、F.06を満たさないとは判断しない。</p> <p>※④に定める「資金不足に陥る可能性または経営の継続が困難となる可能性が高いと判断される場合」に該当する場合は、F.06は満たさないものとする。</p>